

巻頭言

「生産加工CAE技術」特集に寄せて

材料1部

斎藤 卓



人間は、自らの時間的、空間的活動範囲の中で、最大限に情報を収集し、それに基づいて判断し、行動（情報発信）するようにプログラムされている、生き残る確率が高いからである。インターネットに象徴される情報革命により、世界中の誰もが、その気になれば、大量かつ質の高い情報を、瞬時に入手できるようになってしまった。言い換えれば、平均的に人類は賢くなったのである。ここで重要なのは、「世界中の誰もが」にあって、先進国も発展途上国も区別がない、とんでもない競争社会を作り出してしまった訳である。これは、情報を独占する事によって競争優位に立ってきた先進諸国にとっては、極めて驚異であり、忌々しき問題である。

製造業において21世紀に生き残るためには、モノ造りに関わる、あらゆる部門（設計から個々の生産現場まで）からの情報発信と、フィードバックとを可能とする統合情報システムを構築することが不可欠であろう。一方向からの情報管理や、単なるデータベース化ではなく、マルチ方向からの情報交換システムの構築が必要となる。生き残りのキーは、部門間の「情報交換」の質にあると思う。客観的に「判断」できる形に異部門の情報を統合する画期的なシステムの構築が望まれる。